

# 開会挨拶

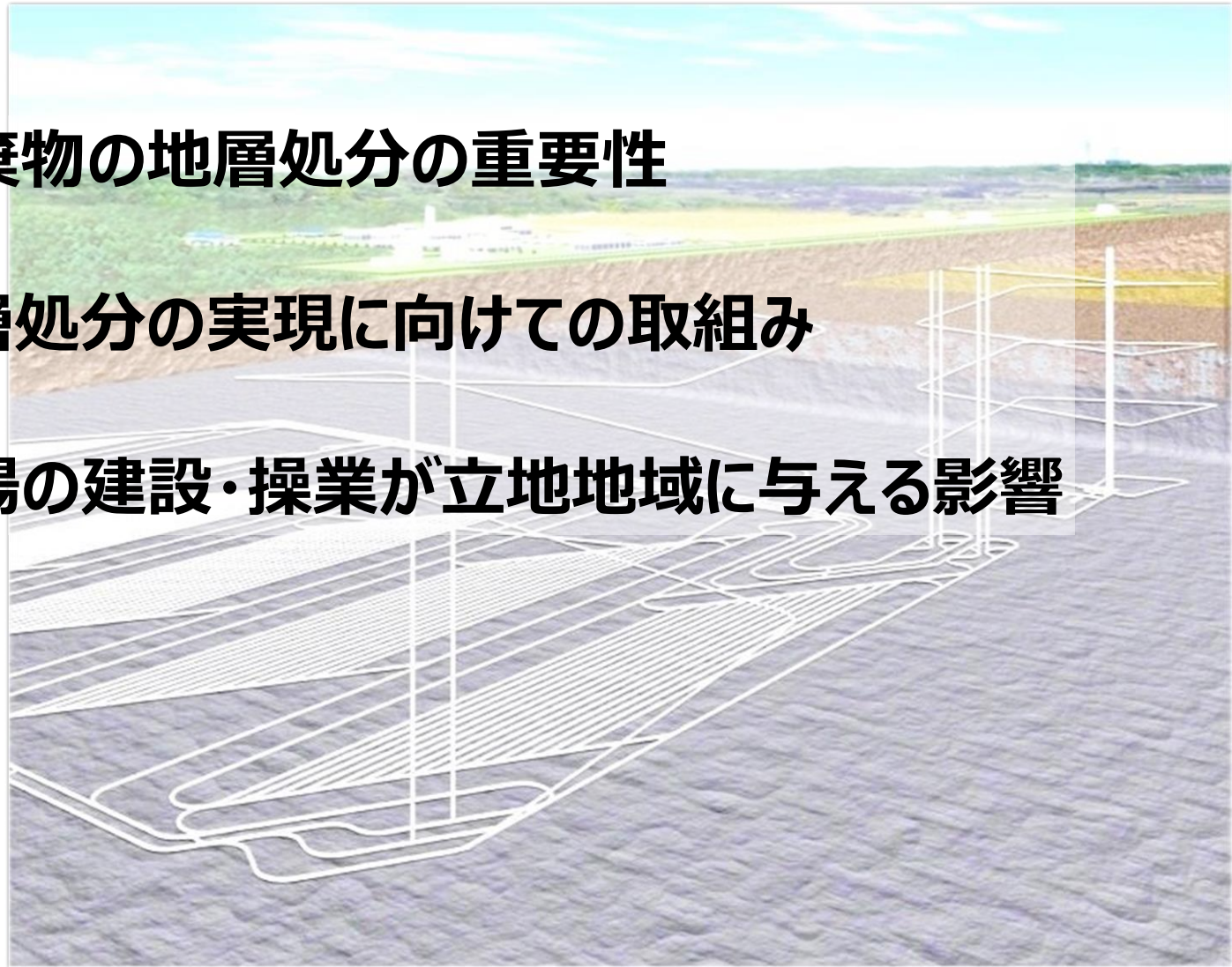
原子力発電環境整備機構

理事長 近藤 駿介



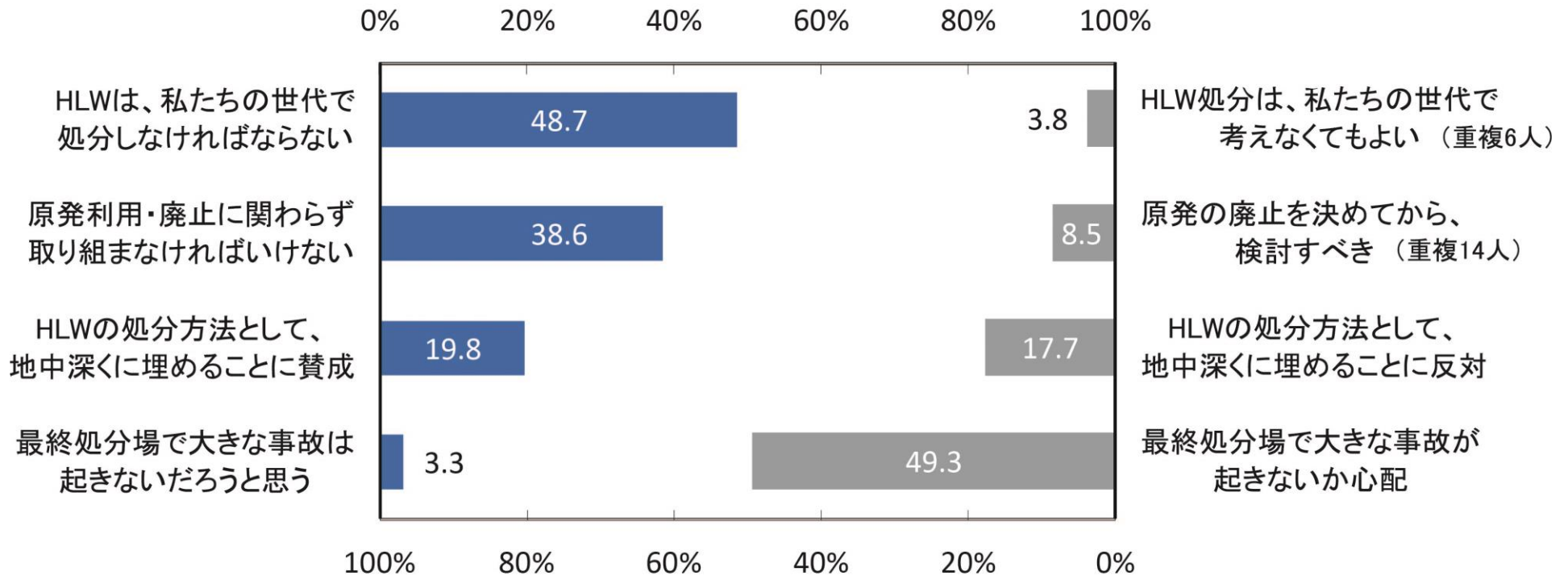
## 国民の皆様と共有したい情報

- **放射性廃棄物の地層処分の重要性**
- **安全な地層処分の実現に向けての取組み**
- **地層処分場の建設・操業が立地地域に与える影響**



# 国民の皆様の受け止め

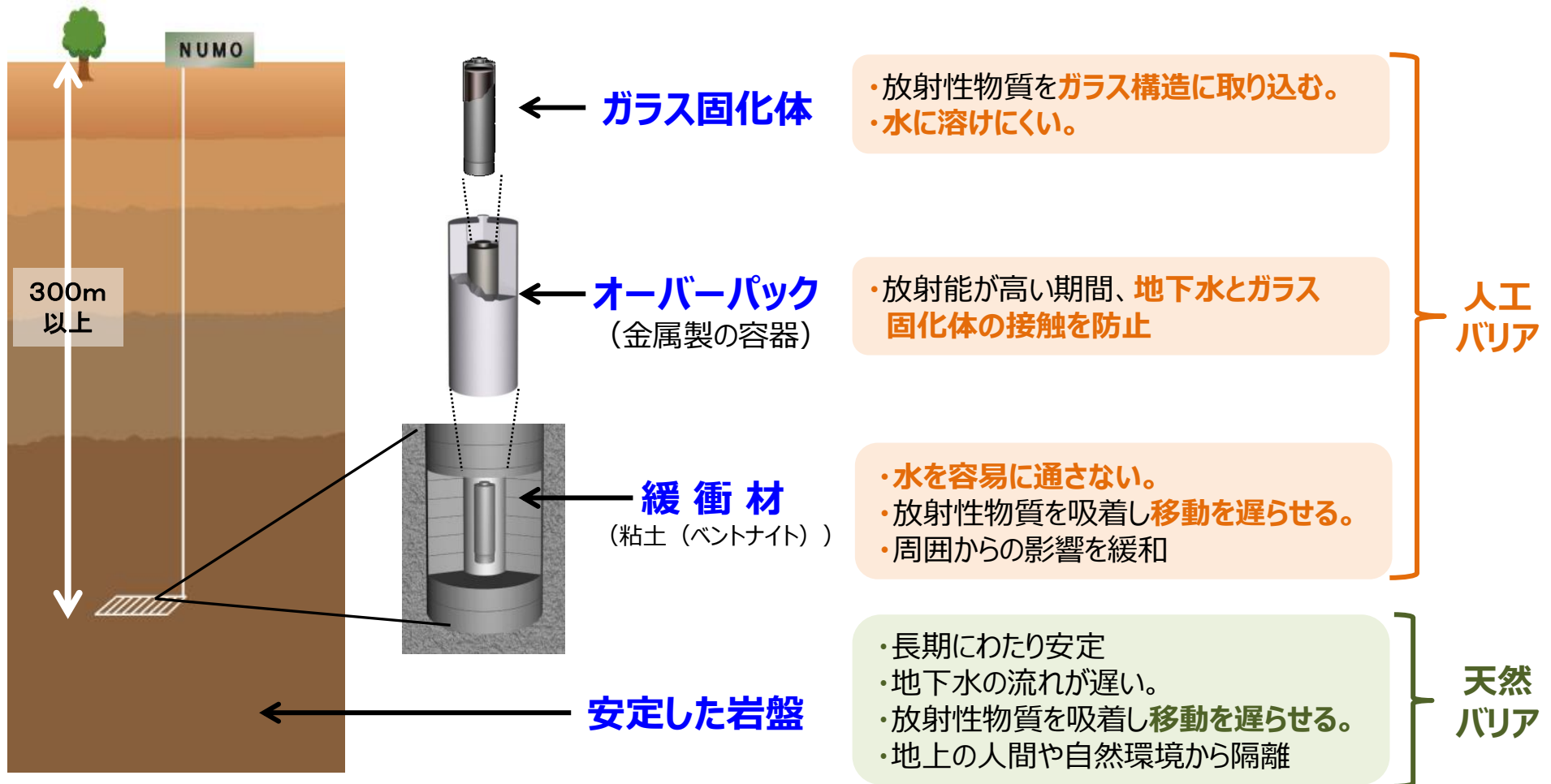
18年10月全体 N=1200



※HLW: 高レベル放射性廃棄物

# 地層処分の方法

放射性物質を「人工バリア」と「天然バリア」を組み合わせた多重バリアシステムで長期にわたり閉じ込め、人間の生活環境から隔離する



放射性物質の移動は遅いので、地上に到達するとしても、それまでに大部分は崩壊減衰しているため、それによる被ばく線量は地下から日常的に放出されている天然放射性物質によるものに比べて十分小さい。



このことを示すうえで、

- 埋設した地質環境やそこに置かれた人工バリアが時間とともにどう変化していくか
- その変化の不確実性の範囲と、それが被ばく線量に与える影響
- 仮にこんなことが起きたらという“**What if シナリオ**”をどこまで考え、その場合にどういうことが起きるのか

などについても、対話を通じて皆様にお伝えし、心配に思われるところを伺って、それに誠実に対応していく。

# 対話型全国説明会

## 会場全景

少人数でテーブルに分かれて丁寧に説明・質疑応答



参加者の質問を付箋で整理し、  
多様な関心・疑問にお答え



マップの意味、要件・基準等について詳しく説明



ヴァーチャル・リアリティ体験や模型等を展示



# さまざまな対話を通じて

## ▼パンフレット



## ▲HPやSNSを通じた情報発信

▶  
ジオ・ミライ号出展  
出前授業  
勉強会  
施設見学  
例



- **NUMO**は、放射性廃棄物の安全な地層処分の実現に取り組んでいる。この取り組みが信頼されるためには、きちんとした裏づけのある説明が必要。この点で、包括的技術報告書の公表は重要。
- **本日のパネル討論**：この報告書を公表したことを踏まえて、地層処分の安全性について今後どのように情報発信や説明・対話をしていくべきか。